

九州産業考古学会報

第35号 2023年9月1日発行 発行元：九州産業考古学会

学会のこれからと情報発信の重要性

市原猛志（熊本学園大学／NPO法人門司赤煉瓦倶楽部理事長）



「九州産業考古学会報」創刊号の発行から、今年でちょうど20年になります。創刊号から編集を担当し、結構な頻度で原稿不足に苦しみ、いづれか刊行できないと困ることもありました。今回、ようやく編集担当を交代できることとなり、そのかわりになればと巻頭言をお引き受けする運びとなりました。

ここ20年で産業遺産を取り巻く状況は大きく変化したことは間違いありません。この間、伊藤伝右衛門邸や嘉徳劇場、志免鋳業所堅坑櫓や熊本紡績工場など学会として関与した施設の多くが文化財となりました。これに対して解体の憂き目にあった施設も数多くあります。2006年に総会を行った宝珠

山へのアクセス路である日田彦山線は水害の被害を受けBRT路線となり、肥薩線の行方は未だはっきりとしません。

このような流れの中で、学会として何が出来るのか、あるいは何が求められているのか。2021年より熊本に研究室を設け、ここでしか出来ない活動を模索しながら、北九州では旧帝国麦酒醸造所施設の活用に向けた取り組みを進め、また2015年に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産—製鉄・製鋼、造船、石炭産業—」の構成資産に対する福岡・熊本両県での支援活動についても随時行っています。

学会のこれからを考える際に、ひとつは人材の確保が重要となってきますが、そこにたどり着くまでの問題もあります。学会というものが面倒でひとにぎりの研究者が難しい顔をして話し合っているものではなく、実際のもを現地で見て、楽しく学び、これからの活動につなげていけるような場であることを積極的に広報していかねばなりません。

本会がターゲットにすべき人材像として、従来の研究者層や地域史・郷土史愛好家のみならず、よりマニアックな情報を求める地元ガイドや学芸員、普段の活動とは異なった楽しさを求める旅行好き、専門家から意見を聞きたい観光業者なども巻き込んでいけるようなきっかけづくりを、北九州で、熊本で、あるいは日本各地でこれからも取り組んでいく必要があるように感じます。本年9月に『47都道府県・産業遺産百科』を丸善出版から刊行致しますが、これもまた産業遺産を知るきっかけのひとつに出来れば幸いです。

【報告】

気ままに近代化遺産散歩（黒崎編）

時里奉明（会長）

2023年6月11日（日）の午後、黒崎の藤田地区（北九州市八幡西区）周辺の史跡を訪れた。曇り空で蒸し暑く、時折小雨も降るなかを、尾崎徹也さんの案内により、砂場一明さん、渡辺みかさんと一緒に、汗だくになりながら、歩いて回ったのだった。

江戸時代は長崎街道が通り、筑前国では大規模な宿場があったこと、大正時代に黒崎窯業（現黒崎播磨）、安川電機などの企業が設立されて、工業地帯になったことなどが、私が黒崎に抱いていたイメージであった。現地を訪れ、史跡を見て回ったのは、今回が初めてであった。中世から近世における史跡（黒崎城跡や宿場町跡など）を、何も紹介しないのはもったいないが、今回はいわゆる近代化遺産を紹介することにしたい。

JR 黒崎駅から北東へと歩き、黒崎城跡へと向かう途中、駐車場の出入口に鉦滓煉瓦の門柱が立っていた（写真1）。



写真1

右側の門柱板には、「小野田八幡発電所」の文字が刻まれている。ここが、小野田セメント工場の「変電所」跡地である。この前身在、1895（明治28）年に発足した中央セメントであった。この地域において、最初の近代的な工場である。中央セメントは、たびたび経営難に陥り、一時は工場閉鎖に追い込まれながらも再開し、1929（昭和4）年に小野田セメントに合併されている。野ざらしになっている門柱を見ながら、先駆的でかつ不死鳥のような歴史を思い浮かべた。

黒崎城跡から下って長崎街道に入り、黒崎宿東構口を通り過ぎて左折すると、鉦滓煉瓦造の洋館が見えてきた。末松商店の事務所である（写真2）。



写真2

末松家は黒崎の名家で、製鐵所の求めに応じて、各種の事業を手がけている。大正時代に入ると、中央セメントの用地拡張に

ともない、敷地を譲渡して、現在の地に移り住んだという。末松商店株式会社は、1919（大正8）年に設立されており、建物もそのころのものだろうと言われている。また同年、末松清一を中心として、日本調味料醸造株式会社を設立した。今でもニビシ醤油株式会社として、創業地の古賀市で生産を続けている。末松家は、建物の保存活用に熱心であるという。その説明を聞きながら、末松家と黒崎の近現代へと思いはとんだ。

JR 鹿児島本線を横切り、長崎街道から外れて、スピナ紅梅店へと向かった。その南側周辺の一帯が、八幡製鐵所の紅梅社宅跡である。道路を歩いていると、マンホールにS字のマークを見つけた（写真3）。



写真3

このマークは、八幡製鐵所の社章である。また、鉾津煉瓦で造られたゴミ収集場所も残っている（写真4）。



写真4

八幡製鐵所の社宅跡は、だいたいきれいに整理されていて、何も残っていないことが多い。しかし、ここはポツポツと残っていて、それらを指摘してもらうのが楽しい。最後に、近くの炭鉾家（上野）邸宅跡の庭や塀を眺めて、アーケード街へと向かった。

JR 黒崎駅から出発して1時間30分くらいだったろう。実際に現地を歩いてみて、その歴史を実感するとともに、新たにわかった歴史も多く、興味は尽きなかった。なんてビールが美味しいこと！居酒屋の片隅で、濃密な時間を思い出しつつ語り合い、ふと気づくと、ジョッキを何杯もかたむけていたのだった。



【報告】

2022 年末の端島 ～軍艦島ツアーに参加して～

青地学（会員／ポリテクセンター荒尾）

2022 年の 12 月に長崎へ行く機会を利用して、端島（軍艦島）を訪れた。急遽決まった長崎行きということで、12 月 4 日の訪問の約 1 週間前に、端島の上陸を企画する数社の中から 1 社にわずかな空席を見つけて予約することができた。図 1 が当日撮影した端島の概観であり、強大な軍艦を思わせる。



図 1 端島の概観

週末ともなると満席になる人気ツアーに予約したとはいえ、上陸の可否は決められた波高に収まっているかどうかによる。当日はあいにくの曇り空で風も出てきており、上陸の可否が心配されたが、上陸の許可が下りたとのアナウンスが船内に流れると、歓声と拍手が沸き起こった。

図 2 のように灰色のアパート群が岸壁近くまで迫って林立する姿には圧倒される。岸壁には大きな亀裂が走り、建造物の壁面も所により破損が見られた。



図 2 岸壁に迫るアパート群

上陸後は整備された見学通路を進むが、建造物を近くで見ると劣化の進行具合が著しいことがわかる。図 3 は足場が組まれた建造物で、鋼材で補強されたものも見られた。



図 3 足場が組まれた建造物

図 4 は、拡張が窺える明治期の護岸で、世界遺産となる上で重用な要素となったようである。



図4 拡張が窺える護岸

見学通路は上陸する栈橋から島の南部を往復するよう整備されており、折り返し部となる広場からは、図5に示す日本最古と言われる大正時代のアパートの威容が見られる。当日配布されたパンフレットの写真と比較しても、壁面の崩壊が進んでいることが確認できる。



図5 30号アパートの概観

さらに、島の端には図6に示すプールがあったが、内部や周辺も瓦礫が散乱して、台風といった荒天時の破壊力はすさまじい様子である。



図6 海水プール

上陸した一行は栈橋近くの広場へと戻って記念の集合写真を撮ってから乗船したが、無事に上陸でき、大きく雨にも降られず一同満足した様子であった。上陸後は雨が少し降りはじめたが、傘は使用できないとのことで、レインコートの提供が準備されていた。

大勢の観光客を安全かつ円滑に誘導し、わかりやすい説明で高い満足度となっているようで、長崎を代表する観光地の一つとして定着していることが伺えた。

図7は乗船前に撮影した小中学校の遠望である。島の隅々まで見てみたい好奇心に駆られるところである。



図7 小中学校遠望

今回は幸いに上陸できたが、波高によっては出航しても上陸せずに船上からの見学とのことであった。国内のクルーズ船の大事故もあつたか、より厳しくなっているようである。

軍艦島として広く知られたところであるが、コロナ禍においても盛況な、近年の軍艦島ツアーの状況を報告した。



【書籍紹介】

『新修宗像市史』新配本2巻 木元富夫（顧問）

『新修宗像市史』（テーマ別に全6巻、刊行中）には小会会員も執筆陣に加わっているが先頃、第3回配本として同時に2冊が刊行された。同市史は、周辺町村を合併して新宗像市が発足した10周年（2015年）を祝う記念事業として企画され、2019年に初回が配本された。今年は2023年、えっ？まだ続いていたの、と思ったことだったが、このペースでは全巻が揃うのは、市制20周年記念になることだろう（それにしても、今回配本奥付が令和4年3月発行とあるのは歴史書としてこれでもいいのか、また第1回配本の自然編の書名が『うみ・やま・かわ』とひらがなだったのが、今回の書名は『海の道……』と漢字になっているのはなぜなのか、愚生には不審なことだ）。

さて待望久しい新刊は『海の道・陸の道』と『いくさと人びと』の2冊である。前回（第2回）配本『教育・文化・まちづくり』が、市政パンフレットの集成のようなもので期待外れだったが、今回の2巻は一瞥の限りでは手堅く仕上がっているように思われる。「道」編には宗像をめぐる海路・陸路の路線図や、鉄道の歴史的経緯や遺構、駅舎や車両の古写真が、「いくさ」編には「神郡宗像」云々はともかく、近代以降の軍事や戦争に関わる砲台跡や掩体壕が取り上げられるなど、産業遺産に関連する記述も多い。

一つだけ、「いくさ」編には大戦末期、宗像大社に隣接して国立の「九州国民勤労訓練所」なるものが設置され、この神境の合宿所で、各地から召集された「産業戦士」のリーダー格の報国精神の涵養が推

進されたとあった。いかにも宗像ならではの歴史的光景であるが、これなど別巻に予定されていると聞く「産業」編や「祭祀」編にも関わる史実といえる。多面的な事象を分析して、どの方向からどこまで記述するか、これはテーマ別編集の難点だろうが、続巻での更なる究明と展開を期待したい。

何れにせよ500頁、700頁を優に越える大判の大冊で、これで頒価3000円とは安すぎる。諸氏におかれては、まずは近くの図書館で手に取って頂きたい、今回の刊行を一言お知らせ申し上げる次第である。

照会先：市史編集委員会
(Tel.0940-62-0211)

【お知らせ】

SNSはじめました

当会の活動の様子や産業遺産・産業考古学に関する情報をさらにお届けするために、Twitter（ツイッター）※1をはじめました。下のQRコードよりご覧ください。また、SNSに投稿する記事として、産業遺産を訪れた際の簡単なレポートや写真などを募集します。皆さんの記事をお待ちしています。

（今後はFacebookも開設する予定です。）

【1記事 140字以内 画像4枚まで】
送り先: kyushusangyoisan@gmail.com
担当: 渡辺

（※1）現在Twitterは「X（エックス）」へアプリの名称を変えています。黒背景に白字でXというデザインが現在のアイコンになります。



【アカウントURL】

<https://twitter.com/kihs1989>

【お知らせ】

令和五年度総会について

今年度の総会は、久々に福岡県内から飛び出し、熊本市中央区の熊本学園大学産業資料館にて、熊本産業遺産研究会の協力のもと開催いたします。

会場である熊本学園大学産業資料館は、熊本駅南にあった月星化成熊本工場（旧熊本紡績工場）にあった電気室を移築したもので経済産業省の近代化産業遺産に認定されているほか、国登録有形文化財にもなっている施設で、熊本産業遺産研究会が設立したきっかけとなった施設でもあります。

午後には熊本地震の被害を受けながら復興への歩みを続けている古町・新町地区を対象に、熊本学園大学市原ゼミの学生による学生まちあるきガイドを行う予定です。

皆様のお越しをこころよりお待ちしております。

記

日時：2023年9月30日 10:30～17:00

場所：熊本学園大学産業資料館

（熊本市中央区大江二丁目 5-1）

内容：事業報告及び計画・会計報告、事業計画、会名の改変及び会報名の変更等について その他

研究発表：11時～12時30分

市原猛志「第19回 ICOMOS（国際遺跡記念物会議） General Assembly 参加報告」ほか、熊本のメンバーによる熊本地域の産業遺産について

（昼食は、見学会集合場所に近いサクラマ

チスクエアほか市街地にて）

見学会：14時～17時

「学生まちあるきガイドによる熊本市内・古町新町地区の町並みと産業遺産近代建築めぐり」

（見学会参加費・資料代 100円）

新町バス停集合～吉田松花堂（外観等見学）～新町問屋街・菓子屋街～室屋～長崎次郎書店～森からし蓮根～明八橋～珈琲回廊（建物リノベーション）～旧第一銀行熊本支店～住友銀行熊本支店～明十橋～和田かまぼこ店～料亭群

まちあるき終了後は懇親会を予定していません（会場は新町地区近隣を予定）。

・アクセス方法・

福岡より遠方からの来訪：博多バスターミナルで高速バス「ひのくに号」に乗り、味噌天神バス停で下車、北へ徒歩20分程度で到着します（4名単位の移動は回数券あり）。
久留米大牟田方面より：JRに乗り熊本駅で乗換え、水前寺駅から徒歩15分ほどで着きます（googleマップなどをご使用ください）。または熊本駅から熊本都市バス（第一環状線など）を用い、大江渡鹿バス停から南へ徒歩5分程度で到着します。



写真・熊本学園大学産業資料館

■■会報第 35 号・目次■■

【巻頭言】

学会のこれからと情報発信の重要性
 ……………市原猛志 1

【書籍紹介】

『新修宗像市史』新配本 2 巻
 ……………木元富夫 6

【報告】

気ままに近代化遺産散歩（黒崎編）
 ……………時里奉明 2

2022 年末の端島
 ～軍艦島ツアーに参加して～…青地学 4

【お知らせ】

SNS はじめました …………… 6

令和五年度総会について …………… 7

今後の予定 …………… 8

会費納入・ご寄付のお願い …………… 8

今後の予定		会費納入・ご寄付のお願い 当会は年会費を個人会員 2000 円、団体会員は 5000 円それぞれ徴収しています。当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。 会費納入・寄付先口座（一覧） ・ゆうちょ銀行 17430-88882241 キュウシュウサンギョウコウコガツカイ ・福岡銀行大牟田支店（店番 691） 普通 1914369 九州産業考古学会
9 月 30 日	年次総会 （熊本学園大学産業資料館）	
10 月 16～23 日	まちかどの近代建築写真展 in 熊本（熊本学園大学）	
10 月 28 日	世界遺産講演会（北九州市立 八幡西図書館）	
11 月 4 日	産業遺産学会全国大会（島根 県邑南町）	
12 月		

◇◇会報原稿募集（会員外でも応募できます！）◇◇

『会報』への積極的な投稿をお願いします。募集原稿は【報告】や【研究発表】、【お知らせ】などがあります。原稿の採否は事務局で決定します。また紙面の都合上、文面レイアウトに関して編集側で一部変更する場合があります。投稿に関する詳しい情報は学会ウェブサイト及び事務局まで。

九州産業考古学会事務局 〒811-3430 福岡県宗像市平井二丁目 12-1 砂場一明 気付

TEL&FAX : E-mail : k-sunaba@jcom.home.ne.jp URL : <http://kias.kilo.jp/index.php>

学会ML 希望者は、上記アドレスまで連絡願います。